

特色ある教育・研究

LASBOS

海や生き物を学ぶオンライン教育システム

水産学部では、海や生き物を学ぶオンライン教材を集めたサイト「LASBOS」(=Learning and Study by Balance de Ocean System)を立ち上げました。動画コンテンツはLASBOS YouTubeから、サイト形式はLASBOS Moodleから。「北極の海」「練習船の調査」「SDGs」「卒業生の活躍」

LASBOS YouTube



LASBOS YouTube

水産学部の学科紹介や実験や実習の様子を動画で覗いてみましょう!

おすすめ LASBOS YouTube



水産学部学科紹介



ウニの解説



在学生の活躍紹介

ラスボス 北大 検索

SNS

新着情報やおすすめコンテンツを紹介



「水産学部の各学科」など、テーマで分類しています。本格的な学術情報から、気楽に楽しめるコンテンツまであります。高校生の皆さまには「いつでもオープンキャンパス」が必見。動画教材は、LASBOS YouTubeから発信しています。ログイン不要で、どなたでもご利用いただけます。

LASBOS Moodle (Webサイト)



LASBOS Moodle

水産学部ではどんな研究ができるのか? 研究紹介・研究方法のコースが参考になります。

おすすめ LASBOS Moodleコース



共創教育

企業との協働による人材育成等

水中・空中ドローンの利用が、漁業や港湾管理、海洋建築で注目されています。水産学部でも研究利用が進んできました。現場の誰もがドローンパイロットに! 大学と企業がコラボして、奥尻島や木古内などのフィールドでドローン講習会が開かれています。



▲奥尻高等学校の潜水実習に同行し空中・水中ドローンで撮影

◀木古内町での空中ドローン講習会

紹介動画をみる



潜水実習

ダイビングライセンスの取得が可能

水産学部全学科の3年生以上では、潜水調査実習の授業(選択)があります。座学と専用プールでスノーケルとスクーバを学びます。授業履修のあとは、課外活動として道南の海岸へ行き、実際に海に潜ります(Cカード取得可能)。



授業担当: 藤田先生より、「研究で海に潜るチャンスもあるので、是非、挑戦してください!」



資源機能化学科 藤田 雅紀 准教授

函館マリカルチャープロジェクト

【内閣府：地方大学・地域産業創成交付金事業】

北海道大学水産学部及び地域水産業共創センターは函館市と連携し、魚類養殖により排出されるCO₂を海藻養殖により吸収する「地域カーボンニュートラル」養殖産業という新たな産業の創出や、地元に着する若手人材の育成に寄与する取組を実施しています。具体的には、キングサーモンとマコンプの完全養殖技術の開発を進めるとともに、地域の将来を担う人材を育成するためのCREEN人材育成プログラム、ノルウェーなどの養殖に関するトップレベル人材を招へいして研究・教育を行う事業などを実施しています。また「函館をもっと良いまちに！プロジェクト」という、函館市内の学生がサークルのような活動で函館をより魅力的な街にするための企画の支援も行っています。



▲養殖試験中の生け簀内を泳ぎ回るキングサーモン



養殖試験中のマコンプ▶



トップレベル人材、ノルウェーベルゲン大のトム・オル・ニルセン先生のレクチャー



CREEN人材育成カリキュラム「水産学演習」で養殖の生産現場(生け簀)を見学研修



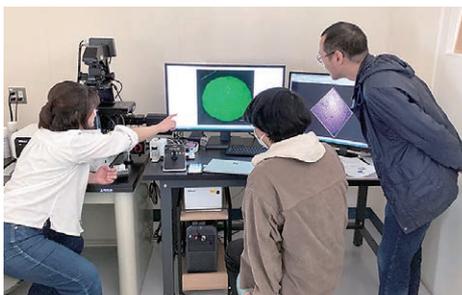
「函館をもっと良いまちに！プロジェクト」函館市内の学生団体ISARIBI withによる地域活性化活動

鰭(ヒレ)から魚を創る

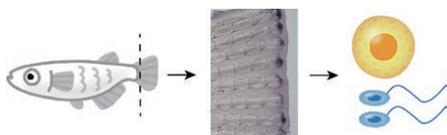
【科学技術振興機構】

創発的研究支援事業

魚の鰭(ヒレ)の細胞から精子と卵の元となる生殖細胞をつくり、個体再生させることに挑戦しています。この方法が確立されれば、精子や卵の採取が困難な魚においても育種や遺伝資源の保存、絶滅危惧種の再生がヒレだけで実現できる可能性があります。スーパーで売っている美味しい魚のヒレからも、魚を増産できる日が来るかも!?



研究風景。顕微鏡で撮影した生殖細胞の画像について議論している様子。



切り取った魚のヒレから卵と精子作りに挑戦しています。



増殖生命科学科 西村 俊哉 助教

北極域研究強化プロジェクト

【文部科学省】

ArCS III: Arctic Challenge for Sustainability III

ArCS IIIは、国立極地研究所、海洋研究開発機構、北海道大学の3機関が中心となって実施する、我が国の北極域研究のナショナルフラッグシッププロジェクトです。水産学部は、「北極域の生物多様性の将来予測と保全に向けた科学的基盤の確立」および「北極沿岸地域の雪氷・海洋・生態系の変化から探る環境・社会システムの持続可能性」の両テーマで中心的な役割を果たしています。水産学部生や水産科学院生が、おしよ丸や他機関研究船による北極海観測、北極の海水域での野外観測、冬季サロマ湖での氷上観測などに参加して、北極域の環境変化や生態系を調べる研究を進めています。



海上上でできたメルトポンド(水溜り)の観測風景 (2020年9月北極点付近、野村大樹撮影)



海洋資源科学科 上野 洋路 教授